

中国血液透析工程師の現状と今後の交流について

一般財団法人 臨床工学国際推進財団
理事 園川龍毅

1. 中国工程師資格法制化の現状

中日臨床工学の交流の始まり

2010年より中日の臨床工学領域における学術・技術交流がスタートした。その交流の中で、中国における透析患者数の増加に伴い、血液透析療法の質の向上及び透析技士の資格法制化に向けた取り組みを支援することが課題となった。2012年、中日技術交流事業として日本臨床工学技士会、国際交流委員会にて「中日交流事業」がスタートすることとなった。

血液透析療法の質の向上に向けた支援として、日本の透析液清浄化に関する専門家を派遣し、講演を行う学術的支援が、主に行われてきた。また、資格法制化に向けた支援として、日本の臨床工学技士の教育テキストを寄贈し、教育カリキュラムの提供や日本の透析に関する認定資格制度の内容に関する講演も行われてきた。

学術的交流の実績・広がり

毎年、中日における主たる学術集会へ相互訪問し、日本側からは、透析の質向上に向けた取り組みに関する講演（透析用水の清浄化に関わる内容や両国の血液透析分野の現状に関する内容）が行われてきた。主たる学術集会とは日本では日本透析医学会、日本臨床工学会や日本血液浄化技術学会など、また中国では中国医院協会や中国医学装備協会、上海市で開催された国際血液浄化論壇などが挙げられる。さらに、中国の各省単位の透析品質管理センターの催す学術集会にも現地の招聘に対応して講師を派遣してきた。

2020年以降はCOVID19のパンデミックに伴い、現地への講師の派遣は出来ず、対面での交流は途絶えたものの、WEBを活用したオンライン形式という新しい形の技術交流が広がりを見せており、実現可能な交流事業の様式が構築されつつある。



血液透析臨床工程（技）師に向けた業務規範制定

中国医院協会・中国医学装備協会がそれぞれに血液浄化管理委員会を主管している。臨床工学国際推進財団も、北京大学人民医院の左力教授、上海復旦大学部附属

中山医院の丁小強教授との協力体制を築き、上記協会とともに、下述の資格法制化の基盤づくりに注力してきた。

そして中国医学装備協会では、2022年、中国の血液透析臨床工程（技）師に向けた業務規範（Code of practice for clinical engineers and technicians of hemodialysis）を公布する予定である。現時点では、法的な効力は弱いものの、内容的には日本の臨床工学技士の業務指針に近いものである。

2. 中国血液透析エンジニアとの今後の交流について

中国が広大な故に、原水の硬度の違い等に悩まされる例も多く、透析の品質向上の観点から、日本の専門家の現地学術集会へ招聘需要は大きい。2019年までは、各省単位の透析品質管理センターの主催する学術集会からの招聘にも対応してきたが、COVID19のパンデミック以降、依頼は途絶えた。

一方、日本の透析液清浄化技術が役立つ部分は多く、中国の透析医療の質向上に向けた支援は明確に身を結ぶ。また、これらの技術支援に伴って、完成された本邦の透析施設環境では考えの及ばない創意工夫が求められる場合も多く、中国だけでなく、本邦の臨床工学技士にとっても貴重な経験となる。

臨床工学国際推進財団は、世界的にも稀有な、本邦の優れた“臨床工学技士制度”を世界に普及させることを目的として設立された。発展途上の国や地域ならずとも、この制度を普及・根付かせるためには、単に「制度の確立や継続的な人材育成」のみならず、対象国・地域の「保健・医療システムの充実」や「医療機器産業の拡充」にまで課題が及ぶ。臨床現場だけでなく、行政機関や国際企業の皆様との連携なくして達成することは叶わず、中国の場合も、中国内の交流・活動の幅を広げてゆく。

